

2019年度

(平成31年度、令和元年度)

教育委員会の事務の点検及び評価報告書

令和2年11月

舟橋村教育委員会

目 次

I	教育委員会の「教育に関する点検及び評価」について	1
1	趣 旨	
2	対 象	
3	方 法	
	(1) 自己点検・評価	
	(2) 学識経験者の知見の活用	
II	点検及び評価	
1	教育委員会の運営状況	
	(1) 組織等	
	(2) 教育長、教育委員、会議等の状況	2
	(3) 成果と課題（総括）	3
2	主要施策事業	4
	(1) 事業一覧	
	(2) 事業別の成果と課題	5
3	学識経験者の意見	18
	(学校教育、生涯学習・社会教育、スポーツ振興の観点から)	

I 教育委員会の「教育に関する点検及び評価」について

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進と、地域住民への説明責任を果たしていくため、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行について点検及び評価（以下、「点検・評価」という。）を実施する。

2 対 象

平成31年度・令和元年度の教育委員会の運営状況及び事務事業の執行状況

3 方 法

(1) 自己点検・評価

「舟橋村総合計画」を踏まえた「舟橋村教育大綱」及び舟橋村の教育指導方針に基づき、平成31年度・令和元年度の主な教育委員会の事業運営状況、事務事業の執行状況について点検・評価を行う。

(2) 学識経験者の知見の活用

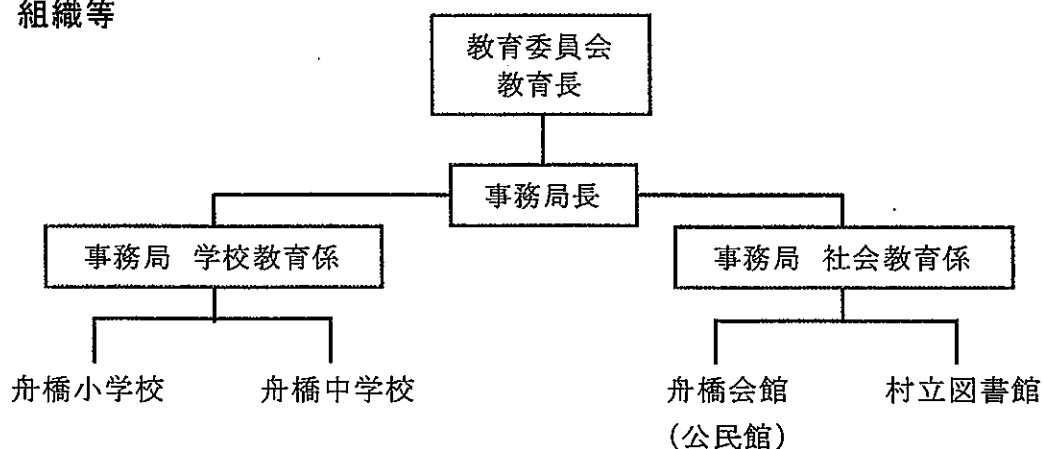
自己点検・評価に対する意見を以下の学識経験者に聴き、本書に記載する。

学識経験者名	宮 田 徹
職業・職歴	富山国際大学 子ども育成学部 教授

II 点検及び評価

1 教育委員会の運営状況

(1) 組織等



(2) 教育長・教育委員、会議等の状況

ア 教育長及び教育委員（任期；教育長3年、委員4年）

（令和元年10月1日現在）

職名	氏名	就任期間	備考
教育長	早川 誠一	R1.10.1 ~ R4.9.30	常勤
教育長職務代理者	喜渡 浩明	H30.12.29 ~ R4.12.28	非常勤
教育委員	大上 和雄	H29.3.15 ~ R3.3.14	非常勤
教育委員	堀田 早苗	H29.10.1 ~ R3.9.30	非常勤
教育委員	野村 覚	R1.10.1 ~ R5.9.30	非常勤

※令和元年9月30日退任者

高野壽信教育長（H28.10.1~R1.9.30）

深川泉美 委員（H27.10.1~R1.9.30）

（現委員の構成）

- ・年齢；60歳代2名、50歳代1名、40歳代1名
- ・性別；男性3名、女性1名
- ・職業；会社員3名、団体職員1名 ※保護者である委員1名を含む。

イ 教育委員会の開催状況（回数；定例会11回、臨時会1回）

会議に付された主な案件

- ・教育指導方針について
- ・教育関係予算について
- ・児童生徒の就学、援助等について
- ・学校運営及び教育活動について
- ・全国学力・学習状況調査について
- ・生涯学習・社会教育事業について（公民館、図書館、スポーツ含む）
- ・新型コロナウイルス感染症対策について（3月4日臨時会）

ウ 主な活動状況

会議・行事名	回数・月日	場所	出席状況
村議会	定例4回 6, 9, 12, 3月	村議会議場	教育長
村総合教育会議	3回 7/30, 12/20, 3/19	村役場	教育長 委員4名
立山区地域ぐるみ教育研究会	1回 11/9	立山中央小	教育長 委員1名
中新川郡地方教育委員会 連絡協議会	1回 7/19	上市町	教育長 委員4名
県市町村教育委員会 連合会	2回 7/9, 10/23,	富山市、射水市	教育長 委員4名

県市町村教育長会	2回 5/30, 10/29	富山市、舟橋村	教育長
東部教育事務所 管内教育長会	3回 5/21, 11/27, 2/5	富山市	教育長
東海北陸地区町村教育長 研究協議会	1回 8/22・23	石川県	教育長
全国町村教育長会	1回 5/9, 10	東京都	教育長
第1ブロック（東日本） 市町村教育委員会 研究協議会	1回 10/7, 8	富山市	教育長 委員1名

○ その他の活動状況

学校行事訪問（入学式、運動会、学習公開日、学習発表会、卒業式等）

(3) 成果と課題

- ・教育委員会として、学校教育・社会教育の運営状況を確認してきた。
- ・当初に計画した事業を概ね順調に進めてきた。(Ⅱ 2 (2) 事業別資料参照)

<新型コロナウイルス感染症対策>

2月から国内に感染拡大し、27日に政府から全国の学校を対象とした一斉臨時休業要請が発令された。本村では3月3日から24日まで小中学校を休業し、引き続き春季休業に入った。3月4日に臨時会を開催し、学校の臨時休業及び村立図書館や舟橋会館等の対応について協議した。その後も、状況が変化する度に事務局から日報を配布して情報を共有した。学校では、原則卒業生と保護者・教職員のみで卒業式を実施した。

<本年度の成果>

- ・10月29日に本村で第2回県市町村教育長会研修会を開催した。主な内容は、子育て共助の村づくりの取組とした。参加者からは、村営住宅を含めて総合的な子育て政策の充実に称賛する声があった。
- ・総合教育会議では、小学校での「立山登山」の復活、子供たちの規範意識向上、学校教育職員の負担軽減について議論し、具体的な方策を決めた。

<次年度への課題>

- ・次年度に策定される「第5次舟橋村総合計画」に準じて「舟橋村教育大綱」を改定する。
- ・学校教育においては、ICT教育の環境整備に必要な当初予算を確保した。（無線LAN、超高速インターネット回線、1人1台のタブレット端末等）今後、効果的な活用の在り方を小中学校で連携して研修する。また、教職員の負担軽減に係る人的・物的・行事的な方策を実施する。
- ・社会教育においては、地域ぐるみの青少年健全育成と学校支援の観点から、地域学校協働活動を整理し体制づくりをする。
- ・上記感染症の終息まで、各事業の実施について柔軟に対応する。

2 主要施策事業

(1) 事業一覧

主要施策事業名	担当係等
<p>【教育大綱 基本方針1】</p> <p>基礎学力や体力の向上を目指した独自性のある教育の実施、学校施設の整備など学校教育の充実を図り、心身ともに健康でたくましく心豊かな子どもの育成を図る。</p>	
<p>○学校教育、学校施設</p> <p>1-1 小中一貫教育（詳細を研究紀要に記載）</p> <p>1-2 ICT教育</p> <p>1-3 地域と連携した教育活動</p> <p>1-4 体力向上、健康管理</p> <p>1-5 食育</p> <p>1-6 施設・整備</p>	<p>小・中学校 学校教育係 学校教育係 学校・社会教育係 学校教育係 学校教育係</p>
<p>【教育大綱 基本方針2】</p> <p>図書館をはじめとした生涯教育施設の充実や学習機会の創出に努めるとともに、住民の主体的な芸術・文化、スポーツ活動を推進し、社会の要請に応じた様々な活動ができるように環境整備を図る。</p>	
<p>（詳細を「生涯学習のあゆみ」に記載）</p>	
<p>○生涯学習・社会教育</p> <p>2-1 生涯学習・社会教育事業</p> <p>2-2 舟橋会館（公民館）事業</p> <p>2-3 舟橋村立図書館の運営</p> <p>2-4 スポーツ振興</p> <p>2-5 国際交流事業</p> <p>2-6 各種団体育成</p>	<p>社会教育係 //（舟橋会館） //（図書館） // 学校・社会教育係 社会教育係</p>
<p>【教育大綱 基本方針3】</p> <p>次世代を担う子どもたちが健やかに育つ青少年活動の充実とともに、地域社会全体で基本的な社会性や豊かな人間性を育む教育風土の醸成に努める。</p>	
<p>○地域ぐるみの青少年健全育成活動</p>	<p>社会教育係</p>

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	学校教育
担当係	学校教育係(小中学校を含む)、社会教育係(村立図書館)

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針1	
目標とする指標	小中一貫教育(学力向上を含む)	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【一貫教育】 ・小中合同授業 ・小中教員合同研修 ・一貫カリキュラムの展開 ・学力向上の取組	・11月;小6・中3総合「平和学習」 ・12月;小5・中2「学校保健委員会」 ・夏季休業中に実施「ICT研修会」 ・言語活動,道徳科,総合,キャリア教育 ・「ふなはし『学び合い』スタイル」の授業展開	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施
【小学校】 ・中1の読み聞かせ	・9月;全学年での実施 (村立図書館での講習後)	・継続実施
【中学校】 ・小6部活動体験 ・小6・中1英語交流会	・夏季休業中実施 ・1月;入学説明会の日に実施	・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・異学年合同学習は、同学年がない緊張と配慮・工夫が必要となり、「ふなはし『学び合い』スタイル」「〇〇上手になろう」の活用により、発達段階や習熟度の違いがあるからこそできる小中合同学習の姿が見えてきた。生徒が児童の発言を受け止め、その後の対話を組み立てていく対話の流れを今後も継続していきたい。 ・これまでの研修内容の積み上げとそれによる子供たちの育ちを踏まえた ICT 活用をイメージして、全教職員が実践的な研修を進めることができた。
【課題】 ・「主体的・対話的で深い学び」の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」を子供たちが身に付けるために、発達の段階に応じた ICT 機器の活用を進める必要がある。 ・読書に関わる活動を通じて、子供たちは伝える楽しさや受け止める喜びを実感しているようだが、読書習慣の定着には繋がっていない。今後も取組を継続することで「メディアに代わる有意義な時間の使い方」として読書活動を進めていく。また、言語活動スキルの習得だけでなく、思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的な学びの実現に努めたい。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	学校教育
担当係	学校教育係(小中学校を含む)

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針1	
目標とする指標	ICT教育	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【整備状況】 ・教室への整備 ・児童生徒への整備 ・教職員への整備 【ICT活用授業の研究】 ・小学校 ・中学校 【教員の研修】 ・小中合同研修 ・先進校視察	・大型テレビ(中1台) ・プロジェクター(小2台,中1台) ・タブレット端末(小15台) ・コンピュータ教室端末更新(中20台) ※国の学習者用PCの基準達成済 ・校務用端末更新(小11台) ・校務用サーバー更新(小) ・2年生活科、4年理科、6年家庭科 3年体育科、4年算数科 ・1年理科、全学年(訪問研) ・7月;ICT機器活用法について 講演(富大大学院 黒田卓教授) ・新潟県三条市立大島中学校へ2名 ・東京学芸大附属小金井小学校へ1名	・継続して整備 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・必要に応じて派遣

2 成果と課題

【成果】 ・本年度は、「小中学校におけるICT教育総合支援事業」(県教委指定、単年度)を受けて研修を深めた。 ・「ふなはし『学び合い』スタイル」による授業において、ICT機器の有効な活用による課題解決の在り方について、小中合同研修や各校の研修から理解を深めた。 ・ICTを用いることで、学習や活動に対する子供たちの意欲が高まった。また、組織的な体制を整え、教職員全体で「学び合い」を研修の軸とし、ICTを用いた授業力向上等が図られた。
【課題】 ・「情報活用能力」は、子供たちが「主体的・対話的で深い学び」の基盤となる資質・能力である。発達の段階に応じたICT活用を進めながら、子供たちの資質を育てていく必要がある。また、担当教職員の負担が重くならないように体制を整えることが必要である。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	学校教育
担当係	学校教育係(小中学校を含む)

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針1	
目標とする指標	地域と連携した教育活動	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【総合的な学習の時間】 (小学校)「舟っ子タイム」の観点 ・3年生;地域、自然、人 ・4年生;地域、環境 ・5年生;生き方、福祉 ・6年生;生き方 (中学校) ・1年生; 村立図書館との連携 ・2年生; 地域での職業体験 ・3年生; 社会福祉活動 【その他の活動】 ・小学校全学年; 農家との交流 ・中学校全学年; ボランティア体験	・すてきマップ作り、大豆作り ・クリーン作戦、エコ活動 ・環境保護活動 ・環境保護活動 ・小学校での読み聞かせ ・「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」 ・ボランティア活動 ・稲刈り、餅つき体験、会食 ・舟橋駅清掃、村行事協力	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・村立図書館を教材とし、そこで働く人の思いや願いを知ることで、子供たちが図書館を大切に、利用したいという願いと態度を育てることができた。 ・竹鼻用水の環境保護活動を通して、自分なりの思いや願いをもって、自主的に実践しようとする態度が育ってきた。 ・地域の施設や自然、農業などの見学や体験活動を通して身近な環境について考えたり、どのような役割を担っているか知ったりすることができた。 ・子供たちは、多様な人々との関わりの中で、相手の立場に立って考えることの大切さに気付くことができた。マナーや言葉遣いについてなど体験の中で習得することができた。
【課題】 ・舟橋村での独自の活動に加え県から活動を要請されるような場合がある。似たような内容をしている場合もあり、授業時数の確保の面からも負担になることもある。 ・外部の方が関係する場合は、事前に綿密な打ち合わせが必要であり、連絡調整の時間が、必要で負担が増す面がある。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	学校教育
担当係	学校教育係（小中学校を含む）、社会教育係

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針1	
目標とする指標	体力向上、健康管理	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【小学校】 ・ 体育的行事 （水泳記録会、運動会、縄跳び大会） ・ 「みんなでチャレンジ3015」 ・ 体力向上推進事業 （バスケットボール教室） 【中学校】 ・ 中学校の運動部活動 （野球、テニス、卓球、駅伝 女子バスケットボール） 【共通】 ・ 全国運動能力テスト ・ 体力向上「夢の教室」 ・ 立腰（姿勢）による健康づくり	・ 全て実施 ・ 達成率 <u>86%</u> ・ 講師を招聘して実施 （高学年対象）計3回 ・ 所属 延90名/118名 ・ 主な成績 野球；県民体育大会出場 （51年ぶり） テニス；北信越大会出場 （男女団体） 水泳；北信越大会出場 （女子自由形6位） ・ 講師を招聘して実施 ・ 特に、小5と中2の合同 学習を実施	・ 継続実施 ・ <u>80%以上</u> ・ 継続実施 ・ 継続維持 ・ 継続実施 ・ 継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・ 全国運動能力テスト結果から全国・県平均と比較して、小学生男子は走力と投力が高いが、柔軟性は低い。小学生女子は、投力が低い。中学生は男女共に概ね平均以上であるが、男子では、柔軟性、女子では投力に課題がある。 ・ 小学5・6年生を対象に、外部指導者を招聘してバスケットボールの教室を開き、技能向上とともに体力づくりを図った。 ・ 平成27年度から中学校で開始した「立腰」教育を、幼小中の連携事業に拡大して取り組んだ。「立腰」教育は、内臓の働きを活性化するとともに、学習中の集中力を高める効果があると言われる。
【課題】 ・ 教育委員会として外部講師を招聘した事業を開催した。今後も各校のニーズ把握を行い、必要に応じて運動教室や出前授業等開催する。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	学校教育
担当係	学校教育係(小中学校を含む)

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針1	
目標とする指標	食育	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【小学校】 ・農業体験学習 ・生産者との会食 【中学校】 【共通】 ・日常の給食指導 ・学校給食週間	・3年生;大豆作りと豆腐作り ・全学年;田植え、稲刈り、餅つき(全学年) ・ネギの収穫体験(全学年) ・給食献立募集 ・村内産野菜の給食「ふなはし日」 ・食文化への理解と感謝 ・立腰の呼びかけ	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・「ふなはしの日」の生産者との会食では、生産者の方に直接質問したり、葉付ニンジンなどを興味深く見たりする姿があり、農業や給食への関心が高まったようである。 ・ネギなどを実際に収穫することで、収穫の楽しさや生産者の方の苦勞に気付くことができ、感謝して食べようという思いをもつことができた。 ・豆腐づくりや餅つきは、自分で育てた作物で食品を作って食べられる喜びを味わえた。 ・学校給食週間に世界の料理を実施したことで、他の国の食文化に触れたり、和食のよさを見直したりすることができた。委員会活動で各国の料理を紹介する掲示を作り、より興味関心を高めた。
【課題】 ・ネギの収穫体験では、収穫だけでなく植え付けを見たり、皮をはぐ作業を見学できたりするとさらによかった。 ・指導してくださる方や、お世話して下さる方の確保が年々難しくなっている。 ・食事のマナーが身に付いている子供がほとんどであるが、姿勢が崩れる生徒への指導は徹底されていない。委員会の活動や教師の声掛けを通して、マナーや、食への感謝に対する意識を高めたい。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	学校施設
担当係	学校教育係

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針1	
目標とする指標	施設・設備	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【小学校】 ・工事 ・修繕 ・設備 【中学校】 ・工事 ・修繕 ・設備	・ナイター照明修繕工事 1件 ・水洗配管漏水修繕、給食 室設備修繕 他 18 件 ・給食室冷蔵庫、児童用 机・いす 他 7 件 ・給食室窓修繕工事 1件 ・体育館映写スクリーン、給 食室設備修繕 他 19 件 ・ルーター、給食用食缶 他3件	・なし ・予算内で随時実 施 ・予算内で実施 ・太陽光発電設備 改修工事 ・予算内で随時実 施 ・予算内で実施

2 成果と課題

【成果】 ・児童生徒の安全を第一とし、校舎の修繕をはじめ、時代に即した教育環境の整備を図るとともに、児童生徒が楽しく、安心して学校生活を送れるよう施設設備の安全管理に努めた。
【課題】 ・次年度予算として、太陽光発電設備改修工事や修繕費等を計上しているが、社会状況の変化や経年劣化により、修繕箇所が増加すると思われる。限られた予算の中で、優先順位を決めて実施していかなければならない。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育
担当係	社会教育係

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針 2	
目標とする指標	生涯学習・社会教育事業	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【家庭教育】 ・親を学び伝えるプログラム （小中学校、子育て支援センターで講座開設） 【青少年教育】 ・放課後子ども教室 ・教養講座 （小中学校育成会、青少年育成舟橋村民会議との共催） ・はつらつ公民館学び支援事業 ・成人式 【その他】 ・国際交流推進事業 （2-5に詳細を記載） ・村史普及推進事業	・11/15 中学校 28名 ・1/9, 2/15 小学校延べ199名 ・11/15 子育て支援センター21名 ・25回実施（平日：24、休日：1） （体験活動、スポーツ、調理） ・10/19 小学校 遊び体験型 ・11/8 中学校 東日本大震災 ・2/13 一般、保護者、中学生 ・1/26 立山自然の家、参加28名 ・1/12 参加者38名 （対象者39名） ・英会話教室10回 登録4名、 交流事業1回 参加25名 ・地域探訪1回 参加7名	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・「親を学び伝えるプログラム」では、年々内容も工夫され、事後アンケートでは「参加して良かった」という意見が多数を占め、今後益々の充実が期待できる。 ・「放課後子ども教室」では、今年度サポーターが増え、安全面や子供たちとの関わり等の充実が図られ、有意義な内容となった。 ・各種教養講座は、ねらいと住民のニーズや社会情勢等を総合的に捉え企画した結果、学びある事業となった。
【課題】 ・どの事業も定着しつつあるが、参加者がなかなか集まらない事業もあり、より多くの住民が参加できるように、PRの工夫や開催時期、時間帯、対象の絞込み等を見直していく必要がある。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育
担当係	社会教育係（舟橋会館）

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針 2	
目標とする指標	舟橋会館（公民館）事業	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【成人教育】 ・公民館講座 ・村の小さな音楽会 ・公民館自主事業 ・村民大学「みどり学園」 【行事開催】 ・第 39 回文化祭	・各種教室 8/ 4 竹とんぼ教室（9名, うち子供 5） 8/24 お菓子作り教室（13名） 12/ 7 ランプシェード教室（5名） 2/ 9 ハーバリウム教室（10名） ・2/23 出演 10 組（26名）（約 100名） ・8/26 和楽器演奏『独楽』公演（約 70名） ・12/22 クリスマス落語会 林家木久蔵 他 2名（約 160名） ・6/30 万葉集ゆかりの名所・旧跡旅（28名） ・9/15 有峰語り部講（16名） ・11/3 各団体発表、文化講演会 等 「誰がウソをついているのか？増税も改革も必要ない！」 森永卓郎 氏（約 200名）	・継続実施 （回数・内容検討） ・継続実施 ・継続実施 （回数・内容検討） ・継続実施 （2回） ・継続維持

2 成果と課題

【成果】 ・公民館講座では、新たに「ランプシェード教室」や「ハーバリウム教室」を実施したが、いずれも見栄えのする作品が出来上がり、参加者にはとても好評だった。 ・「村の小さな音楽会」では、新たに小学生グループの出演やライアー（竖琴）の演奏等があり、とても充実していた。気軽に音楽を楽しめる会として住民にも定着し、毎年楽しみにしているという声が多い。 ・自主事業の音楽公演や落語会は入場無料で楽しめることもあり、村外からも多くの来場者があった。文化・芸術に触れる機会として豊かな情操の涵養につながっている。
【課題】 ・学習の機会や交流の場を提供し、よりよい地域づくりを進めるためには、各種事業への参加者を増やし、幅広い年代層を取り込むことが重要である。そのため、住民の要望を捉えながら魅力ある内容を工夫するとともに、会館だよりやチラシ、ポスター、会館内のデジタルサイネージ上映等により、周知・広報に努めていく。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育
担当係	社会教育係（舟橋村立図書館）

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針 2	
目標とする指標	舟橋村立図書館の運営	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【基本データ】(R2.2末現在) ・蔵書冊数 ・登録者数 ・貸出冊数 【自主事業】 ・各種おはなし会 ・コンサート ・講演会 ・上映会 ・学級招待 【学校、各種団体連携事業】 ・出前おはなし会 ・「14歳の挑戦」受け入れ ・クラス訪問 【ボランティア活動事業】 ・イソップの会おはなし会 【村民活動支援事業】 ・各種展示会 （美術会展・ガラス展・盆栽展・香悦会展）	・90,434冊（雑誌・AV資料を除く） ・11,140名（村内1,844名） ・78,780冊 ・51回（675名） ・1回（84名） ・2回（49名） ・1回（15名） ・2回（80名） ・小学校へ 13回（408名） ・乳幼児健診へ 11回（155名） ・高齢者サロンへ 7回（89名） ・舟橋, 上市, 藤ノ木, 雄山（9名） ・32回（776名） ・11回（220名） ・4回（420名）	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・資料の貸出、レファレンスだけでなく、生涯学習の拠点としての働きにも力を入れ展示会等も積極的に行い、図書館利用の促進につながった。 ・学校との連携を積極的に行い総合学習時にクラス単位で図書館訪問する例が多く見られた。
【課題】 ・図書館に通うことのできない高齢者等に対し、いかにサービスを提供していくか、社会福祉協議会など他の機関と連携を深めていく必要がある。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育
担当係	社会教育係

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針2	
目標とする指標	スポーツ振興	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【村民住民運動会】 (実行委員会委託) 【体育協会事業】 ・常願寺川スポーツフェスティバル ・ソフトボール大会 ・ビーチボール大会 ・卓球大会 【総合型文化スポーツクラブ】 ・定期開催講座 (幼児から一般成人対象) ・集中講座(小学生対象) ・行事、大会等の開催	・10/6 雨天のためレクリエーション大会に変更 参加約 270名 ・6/16 参加約 30名(親子) ・6/23 参加選手 105名(8チーム) ・11/17 参加選手 115名 (男子11チーム、女子6チーム) ・2/2 参加選手 189名 (団体戦102名、個人87名) ・キッズスポーツ教室 幼児 25名 ・バドミントン 12名・フラダンス 10名 ・ヨガセラピー 15名 ・ジュニアテニス 10名 ・跳び箱、鉄棒教室 10名 ・5/19 春の祭典 40名 ・8/17 立山登山 50名 ・12/14 キンボールスポーツ大会 50名 ・3/22 ユニカール 中止	・継続実施 ・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・住民運動会、体育協会事業、舟橋文化スポーツクラブ事業等で、子供から高齢者までの生涯スポーツ振興ができた。参加者についても、例年並み或いは増加傾向でありその役割は大きい。今後もニーズを捉え、各種団体連携して取り組む。
【課題】 ・住民運動会は、準備として約10回程度の会合を設けている。今後は、会合の効率化を図る必要がある。 ・体協事業は、自治会へ呼びかけて参加者を募っている。毎年、一定数の参加者がありニーズはあるものの、地区によって参加者がいない地区もある。参加募集について、方法などを工夫することも課題である。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育（一部、学校教育を含む）
担当係	社会教育係、学校教育係（小中学校を含む）

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針 2	
目標とする指標	国際交流事業（再掲）	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
※ALT講師派遣委託事業 【学校教育活動】 ・小学校での外国語授業支援（月・火・金曜日） ・中学校での外国語授業支援（水・木曜日） 【社会教育活動】 ・教室開催（舟橋会館）（村立図書館） ・行事開催 ・国際交流推進事業	・3・4年生の授業（年 35 時間） ・5・6年生の授業（年 70 時間） ・クラブ活動（年 9 時間） ・1～3年生の授業（年 140 時間） ・特別支援級の授業（年 105 時間） ・ちよこつと使える英会話教室 9 回 ・英語で楽しむおはなし会 10 回 ・7/27 Let's enjoy summer イングリッシュ体験 21 名 ・12/7 いろいろな国をまるかじり ～フランス編～ 25 名 ～アメリカ編～ 11 名→中止	・継続実施 ・継続実施 ・中止 ・継続実施 ・継続実施 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・「いろいろな国をまるかじり～フランス編～」では、昨年同様、男女共同参画推進委員会との共催で実施した。昨年度も好評だったクッキング企画“男女が気軽に作れる料理”をテーマに開催したところ大変好評であった。参加者 25 名程度が調理室の広さにちょうどよかった。
【課題】 ・次年度に継続する事業は、対象者・定員、時期・日程、募集方法等の見直しを行う。 ・「ちよこつと使える英会話教室」は、講師が趣向を凝らした教材を準備してくれたが、登録者が少ない（4名）ので、次年度は中止することとなった。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育
担当係	社会教育係

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針2	
目標とする指標	各種団体育成	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【社会教育関係】 ・社会教育委員会（委員9名） ・青少年育成舟橋村民会議（委員24名） ・村立図書館協議会（委員7名） 【スポーツ振興関係】 ・体育協会（委員50名） ・舟橋文化スポーツクラブ「バンドリー」運営委員会（委員12名） ・スポーツ推進委員協議会（委員9名） ・住民運動会実行委員会（委員12名） 同協議会（委員28名）	・2回開催 社会教育全般の協議 ・5回開催 総会、主催、共催事業の協議 ・2回開催 図書館運営の協議 ・7回開催 主催大会運営の協議、大会開催 ・10回開催 クラブ運営、イベントの協議 ・5回開催（全国、北陸、県、中新川郡等研修会の協力・参加、バンドリーイベント企画・運営） ・計9回開催 実行委員会3回（決定機関） 協議会4回（競技等検討） 住民自治会への説明会1回 当日競技役員打合せ会1回 （運動会運営の協議）	・継続開設 ・継続開設 ・継続開設 ・継続支援 ・継続支援 ・継続支援 ・継続開設

2 成果と課題

【成果】

- 各種団体の協力を得て様々な事業を開催できた。委員は、自治会から輪番制で選出されるが、ほとんどの方が協力的に参画していただいている。今後も自治会の協力を得ながら、地域コミュニティの活性化も含め事業を開催していく。

【課題】

- 役員の中には、多数の委員を兼任されている方もおられ、相当の負担がかかっていると考えられる。会議の回数や効率的運営を検討するとともに、新たな人材を発掘しながら、幅広く住民が関われる仕組みを構築したい。

令和元年度 主要施策事業の実績表

施策の分野	生涯学習・社会教育
担当係	社会教育係

1 目標とする指標及び達成のための実施内容と結果

教育大綱の位置付け	基本方針3	
目標とする指標	地域ぐるみの青少年健全育成活動	
具体的な施策・事業名	本年度の実績	次年度の目標
【青少年育成舟橋村民会議】 ・青少年を守る運動 ・教養講座 ・啓発活動 (子ども・若者支援強化 月間中)	・8/3 村内巡回パトロールの実施 (ふなはしまつりの後) ・10/19 小学校で開催 「遊ばせ隊と一緒に遊びた〜い！」 ・11/8 中学校で開催 「私が体験した東日本大震災」 〜知らないことは怖いこと〜 ・2/13 舟橋会館で開催 「地域で考えよう。薬物依存症」 ・11/3 文化祭会場にてチラシ・ ティッシュを配布	・継続実施 ・村民大会を 実施する場 合は、予算を 大会に当て、 次年度のみ 休止する。 ・継続実施

2 成果と課題

【成果】 ・教養講座については、過去の講座内容を踏まえて必要とされる内容を的確に絞り込んで開催することができた。本年度の内容は、小学生は体験型（遊び）の学び、中学生は体験者（震災）からの講話を聴き、一般向けは、近年更に低年齢化している問題（薬物）を捉え、それぞれの心に響く内容となった。
【課題】 ・文化祭会場にて初めて啓発活動を行ったが、次年度はより効果的な方法をとっていききたい。 ・「地域ぐるみの青少年健全育成」について村総合教育会議で議論されており、次年度に「村民大会（仮称）」を開催するにあたり、村民会議が主体となるよう依頼されている。学校や児童生徒に関わる各種団体に呼びかけて盛大に開催する。 ・令和3年度以降、各世代のニーズに寄り添った教養講座を開催していきたい。

3 学識経験者の意見

舟橋村教育委員会 自己点検・評価に対する意見

令和2年10月1日
宮田 徹(富山国際大学)

1 教育委員会の運営状況について

教育委員会の組織、開催状況、主な活動状況について説明を受けましたが、適切に運営されていると思います。特に令和元年度は新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業など状況が変化する度、日報による情報共有がされたことが評価されます。

教育委員の構成について、年齢・性別のバランスがとれており、また職業も保護者の方を含む会社員、団体職員という幅広く社会の意見を取り入れようとしている点は、地域ぐるみで子どもたちを育てる舟橋村教育の理念の表れであり、学校と社会が連携・協働して、これからの時代に必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に資するものと考えます。

2 主要施策事業の執行状況について

舟橋村教育大綱の基本方針に沿って主要施策事業の成果と課題について説明を受けました。以下、施策の分野ごとに、いくつか意見を述べさせていただきます。

(1) 学校教育

・小中一貫教育について

村に一つの小学校・中学校が近接しているという環境を活かし、教育課程をつなぎ、異年齢合同学習など学び合いによるコミュニケーション・スキルや協働性など求められる資質・能力の育成に取り組まれていることは大変意義深いと考えます。今後の取組としては、就学前の幼児教育との接続や義務教育終了後の状況把握(進学・進路や居住地等)・成果の可視化、それに基づく点検・改善等が考えられます。

・ICT 教育

ICT 機器の活用について積極的に取り組まれている点が評価されます。今後1人1端末が実現した後は、どのように運用するかが鍵となります。スタンドアローンで単なるドリル学習マシンにとどまるのではなく、日常的に活用し、対面指導と遠隔・オンライン授業のハイブリッドで「主体的・対話的で深い学び」の質を向上させるには、教職員の研修や体制整備が課題となると思います。

(2) 生涯学習・社会教育

舟橋村立図書館、舟橋会館、ふなはし文化スポーツクラブなど、特色ある優れた社会資源を活用した生涯学習・社会教育の取組は大きな成果をあげていると思います。

課題としてあげられている「参加者がなかなか集まらない事業」については、見直しが必要と思われる。その際、多様な世代のニーズの把握や当事者団体・NPO などの活用も有用ではないかと考えます。

地域ぐるみの青少年健全育成活動について、村全体で取り組もうとされているのは大変意欲的だと思えます。

おわりに

2020 年からの新しい学習指導要領では、「より良い学校教育を通じてより良い社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校の連携・協働の推進が重要とされています。舟橋村では、今後、地域学校協働活動を整理し体制づくりを進められるとのことですが、大変有意義なことと考えます。

子育て・子育て支援には、多様な分野の取組の協働、とりわけ、教育と福祉の連携・協力が肝要です。舟橋村では、地域ぐるみで「子育て共助の村づくり」を推進されていることは大変素晴らしいと思います。今後、さらに進めていくうえでは、特別な配慮を必要とする家庭(貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍家庭や外国にルーツをもつ家庭等)への対応など、担当部局や関係機関と連携して、多様性・包摂性をもったコミュニティづくりの視点が大切になるだろうと考えます。